

平成30年度地域づくりハンズオン支援事業（専門家派遣型） 「交流会型研修」（第1回）の開催（8月30日・31日）について

復興庁では、「平成30年度地域づくりハンズオン支援事業（専門家派遣型）」において、選定した4つの団体が行う、被災地の地域課題解決に向けた取組を支援しています。

本事業では、各分野の専門家の派遣等を通じた各団体の取組に応じた個別の支援に加えて「交流会型研修」を開催します。

本研修では、3回の研修を通して、各団体や先進地の取組にふれることで、各々が取り組む地域課題の解決に向けた戦略・行動を改めて明確にしていきます。また、「個人」として課題解決に求められる能力を引き上げ、「チーム」として、最大限に機能させていくことを学ぶとともに、「プロジェクト」の成果拡大と地域内外の「ネットワーク」の充実を図る事を目指します。

1回目となる今回の研修では、各支援対象団体の現場の視察等を通じて、地域課題の解決に取り組む過程において抱える各団体の課題や悩みを共有し、課題解決に向けて相乗効果を促すことを目的としています。

記

1. 開催概要（各団体の取組概要について詳細は別紙をご覧ください）

○第1回研修

日時：平成30年8月30日（木）から8月31日（金）まで（予定）

場所：宮城県女川町 まちなか交流館 他 支援対象団体の現地視察・相互交流

支援対象団体：一般社団法人 雄勝花物語（宮城県石巻市）

気仙沼まち大学運営協議会（宮城県気仙沼市）

野蒜まちづくり協議会（宮城県東松島市）

一般社団法人 日本カーシェアリング協会（宮城県石巻市）

2. 今後のスケジュール（予定）

○第2回研修：平成30年10月22日（月）から10月23日（火）まで 山形県川西町内

○第3回研修：平成30年11月29日（木）から11月30日（金）まで 宮城県気仙沼市内

【配布資料】

○ 研修参加募集フライヤー

○ 参考資料 平成29年度 地域づくりハンズオン支援事業パンフレット

1. 一般社団法人 雄勝花物語（宮城県石巻市） ～雄勝花物語による低平地利活用及び交流人口拡大プロジェクト～

① 取組背景・地域課題

- 石巻市雄勝町は、震災によって中心部の商店街が大きな打撃を受け、震災前約4,000人であった人口が約1,500人まで減少（平成30年5月時点）。災害危険区域に指定された低平地の利活用が課題である。
- そこで、**交流人口の拡大による雄勝町の再生**を目指し、現在低平地を活用している雄勝花物語による**花と緑を活用した収益事業の安定化と新たな土地利活用計画の策定**を実施する。

② 支援体制

コーディネーター
(支援事業者)

(株)陽と人

外部専門家
連携団体等

- 花と緑の力で3.11プロジェクトみやぎ委員会
- 千葉大学秋田研究室等

③ 本事業の目的と取組内容

低平地を利活用している雄勝花物語の**収益事業を安定化するとともに、新たな低平地利活用計画の策定を通じた各団体の連携と交流人口の増加を目指す**

取組① ガーデンの持続的運営に向けた収益事業の立ち上げ

- ⊕ 雄勝花物語の収益事業の全体を整理した上で、①ガーデンの温室でのカフェ事業立ち上げ、②エディブルフラワー・ハーブの加工品開発、③果樹栽培の本格化（ブルーベリー栽培の拡大と新たな品目の試験栽培開始）及び④花苗栽培の本格化（ラベンダーをはじめとした新たな花苗の試験栽培開始）の4つを重点的に実施。
- ⊕ 本事業を通じて地域内外の多様なネットワーク・連携体制の構築も目指し、次年度以降の自走に繋げる。

- カフェ空間、メニュー、物販内容の確定
- カフェや地元で販売するエディブルフラワーやハーブを使った加工品の開発
- 次年度以降の収益事業の道筋ができている状態

- 収益事業を実施するための地域内外の効果的ネットワーク・体制確立

取組② ガーデン周辺低平地の利活用案の立案

- ⊕ 既に策定されている「雄勝ガーデンパーク構想」を着実に「実行」すべく、地域内外の関係団体間で実現に向けた話し合いの場（ワークショップ）を5回設ける。
- ⊕ ワークショップでは、構想を具現化するため、ガーデン周辺の低平地利活用計画を策定するとともに、次年度以降に「実行」するための関係団体間での連携体制を構築する。

- ワークショップの実施(5回)
- 低平地利活用構想を「実行」するための低平地利活用計画の策定
- 関係団体間での連携体制の確立

2. 気仙沼まち大学運営協議会（宮城県気仙沼市）

～まちを良くする それぞれの一步を応援する「気仙沼まち大学構想推進プロジェクト」～

① 取組背景・地域課題

- 気仙沼市では、震災後、復興と地域の活性化を目指して、数々のプレイヤーによる「まちを良くする」取り組みが活発に行われてきた。
- そういった取り組みが、より市内全体に広がり、**「学び」を「実践」へとつなげる循環を生む手助けをいかにしてできるかを模索**している。
- 「気仙沼まち大学」（以下、「まち大学」という。）は、『**まちを良くする、それぞれの一步を応援する**』というミッションのもと3年前にスタート。今後は**関係性の整理や、住民の認知度向上などを通じて、まち全体の取り組みの高度化を図る。**

② 支援体制

コーディネーター (支援事業者)	(株)BOLBOP
外部専門家 連携団体等	● 取組の推進経過を踏まえて 検討予定

③ 本事業の目的と取組内容

**「まち大学のミッション」ならびに「事務局機能の役割」を改めて明確にし、
ミッション実現に向けた具体的なアクションについて優先順位づけを行いながら確実に推進する**

取組① まち大学の中長期的展開と 運営体制の明確化

- ⚡ まち大学のビジョンの明確化
- ⚡ まち大学運営協議会事務局の役割明確化
- ⚡ ビジョン実現に向けたKPIの設定
(利用者数、提携団体数、講師数など)

- まち大学のビジョンならびに中長期計画の策定
- まち大学運営事務局の役割および運営体制の見直し

取組② 市内外の関係団体との 連携強化

- ⚡ まち大学として提供したい学びのコンテンツならびにターゲットイメージの整理
- ⚡ 上記を提供できる提携候補団体洗い出し
- ⚡ 提携候補団体に提供できる機能（まち大学への参画メリット）の明確化
(情報発信機能、顧客管理機能など)

- まち大学に協力してくれる提携団体の合意とりつけ(約20団体)。
- スクエアshipにおける提携団体および個人講師によるプログラム実施(提携団体:5回、個人講師:3回、市外団体:1回)

取組③ まち大学に対する 住民の認知度向上

- ⚡ webやソーシャルメディアでの情報発信方法の見直し(HPの改修、FBページの見直し)
- ⚡ 新スクエアship(年末を予定)の運営体制の見直しおよびブランディング手法の見直し

- これからのまち大学のビジョンを反映したまち大HPのリニューアルリリース
- 新スクエアShipでまち大学コンセプトを伝えるイベント実施

3. 野蒜まちづくり協議会（宮城県東松島市）

～ふるさと野蒜の未来をつくる！ 安心あったかプロジェクト～

① 取組背景・地域課題

- 野蒜地区は、震災により大きな被害を受け、人口は震災前の約4,800人から約2,500人まで減少（平成30年3月時点）。高台への防災集団移転も進み、平成29年9月より移転地区にも新たに自治会が設立された。
- 野蒜まちづくり協議会(以下「まち協」という。)は、地区の全世帯参加の組織であり、地区内の8自治会と連携し、まちづくりに取り組んでいる。
- 多くの地域課題を抱える中で、**より多くの地域住民にまちづくりに参加してもらう必要性**を感じていることから、まちづくりに参加するためのきっかけづくり、場の整備を行い、まちづくりに関わる住民の増加を図る。

② 支援体制

コーディネーター (支援事業者)	(株)日本総合研究所
外部専門家 連携団体等	● Webによる情報発信の専門家、ファシリテーションの専門家等を検討中

③ 本事業の目的と取組内容

まち協を知ってもらうことをきっかけに、活動への参加・参画、新たな取組の協働のプロセスを通じて、まち協とともに地域のために活動する仲間を増やす

取組① つながる広がるまちづくり ～まち協Webサイト作成等～

- 幅広い世代に、まち協の活動を知ってもらうことを目的に、適切な情報発信の仕組みを検討。
- Webサイトの作成を中心としつつ、ターゲットとなる住民に適切に情報を届ける仕組みを構築。

まち協の活動を知る人を増やす

- Webサイトでの情報発信開始
- 各地域内ターゲットへの情報発信
-小/中/高校生(1回以上)
-子育て世代(1回以上)

取組② 子どもも大人も楽しいまちづくり ～まち協文化祭開催と野蒜イメージソング作成等～

- 若手有志からなる「ひこばえ座談会」を中心に、子ども達のための文化祭の企画・運営を実施。
- 地域への親しみと一体感の醸成の一助として、住民を巻き込みながらイメージソングを作成し、地区内での浸透を図る。

まち協の取組に参加・参画する人を増やす

- まち協の取組への参加者(100名以上)
- まち協の取組への参画者(企画運営への参加者)(20名以上、うち小中学生10名以上)

取組③ みんなでまちづくり ～まち協プラットフォーム構築～

- まち協の目指す姿を明確にし、仲間を増やすために、参加者が、自ら地域のためにやりたいことを見つけ、小さいながらも形にするための場を設置。

まち協とともに活動する人を増やす

- まち協ビジョンの明確化
- 新たなメンバーの参加(10名以上)
- プロジェクトの開始(2件以上)

4. 一般社団法人日本カーシェアリング協会（宮城県石巻市等） ～コミュニティ・カーシェアリングのプログラム化～

① 取組背景・地域課題

- 震災後、石巻市の仮設住宅・復興公営住宅等で車が不足していた。日本カーシェアリング協会は、**寄付で集めた車両を活用して、住民が共同で利用するコミュニティ・カーシェアリング（CCS）**を開始した。
- CCSは、住民自らがルールをつくり、運営することを通じて、地域の移動手段確保に加えコミュニティ形成にも貢献してきた。同協会は**CCSの普及を目指しているが、石巻市以外には展開できていなかった**。
- このほか同協会では、過疎地域の観光振興の課題である観光客等の移動手段の確保など、**車両を活用した幅広い社会貢献活動を模索**している。

② 支援体制

コーディネーター (支援事業者)	(株)日本総合研究所
外部専門家 連携団体等	<ul style="list-style-type: none"> ● (株)イミカ ● (株)インフォバーン ● 市内宿泊事業者等

③ 本事業の目的と取組内容

CCSを他地域へと広げ、コミュニティの活性化・地域交通・地域福祉に幅広く寄与するとともに、車を活用した多様な社会貢献のモデルを確立し、その成果を発信する

取組① CCSの導入支援プログラム開発と他地域への展開

- これまで培ってきたCCSのノウハウを整理し、CCSの他地域への導入支援プログラムを開発。
- シンポジウムの開催等により、CCSに関心を持つ自治体・団体等を発掘。特に強い関心を持つ団体に働きかけ、導入への道筋をつける。
- CCSの導入支援プログラムは広報ツールへと落とし込み、さらに多くの地域へのPRに活用。

- 導入確度の高い団体への提案完了(3団体程度)
- 広報ツールを完成させ、宮城県内の全自治体担当者への送付完了

取組② 宿泊施設等と連携したタイアップ企画の推進

- 石巻市内の過疎地域の宿泊施設に車両を配置し、宿泊客の移動や観光に活用してもらう企画を実施。
- 宿泊施設以外とのタイアップも企画し、車を活かした多様な社会貢献のモデル構築を図る。

- 宿泊施設とのタイアップ(1件以上)
- 宿泊施設以外の施設・団体等とのタイアップ企画検討(1件以上)

取組③ 協会としての情報発信強化

- CCSや車を活用した社会貢献を進める協会の活動について広く知ってもらい、協力・賛同者を増やしていくため、情報発信戦略の整理、メディアを介した情報発信等を進める。

- 協会の情報発信戦略整理
- メディアを介した発信(1件以上)